

SAPPORO 教区 NEWS

第9号

2008年7月31日

発行：カトリック札幌司教区事務局広報部
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10

Tel. 011-241-2785 / ホームページ：http://www.csd.or.jp

札幌教区司祭のお二方が神様のみもとに召されました…
両司祭の安息をお祈り下さい。(2面)

フランシスコ・ザベリオ

洗者ヨハネ

教区司祭の近野 亘 神父(7月5日)と井戸井 栄 神父(7月11日)が帰天

= G 8 洞爺湖サミットにあたり、共に祈る =

G8諸宗教サミット開催！
20数カ国から宗教者の
代表が札幌に集う

7月2日と3日の両日に札幌コンベンションセンターで、北海道知事と札幌市長の挨拶で開始
世界宗教者会議の「共有される安全保障」をテーマに、①「環境・気候変動…相互関連性を通して共生を促進する」②「ミレニアム開発目標…貧困撲滅の意志を固め、開発を促進する」③「核非武装…核兵器の廃



＝諸宗教サミット会場の様子＝

「絶に向けて」④「暴力的紛争とテロリズム…根本的原因と宗教の誤用に言及する」をサブテーマとして、G8洞爺湖サミットに向けて、宗教者として行うべき平和のための提言が議論なされた。

カトリックからは、ジャン・ルイーピエール・トラン・パチカン諸宗教対話評議会議長官からの「神の愛
にない平和、調和、社会正義に注意を払い、お互いを理解できるように倫理的価値を共通にもつことが大切で、諸宗教の指導者が集うこの機会に協働しましょう」というメッセージが、京都教区大塚喜直司教から紹介された。
そして、カナダ・ウイニペグ大司教でありカナダ司教会議会長であるジェーム

「すべての人が大切にされる世界のために」
7月6日(日)北1条教会にて、共に祈る



＝講演する松浦司教様＝

日本カトリック社会司教委員会主催。札幌地区カトリック正義と平和委員会の協力で「共に祈る集い」を開催
G8サミット前日の7月6日(日)午後、北一条教会において、カトリック社会司教委員会主催の祈りと講演の集いが110名余参加し開かれた。G8に対してはこれまで「地球資源を浪費し、環境を破壊してきた責任」「第三世界を植民地支配して富を奪い、貧富格差をつくり出した責任」更に「合計二万発もの核兵器を削減・廃絶しよう」としない

責任などが問われてきた。そこで正義と平和協、カリタスジャパン、難民移住などの諸委員会を統括する社会司教委員会は、①世界の人人との連帯 ②先住民族の権利回復 ③地球環境との共生 ④貧困問題の克服 ⑤国々のリーダーたちの責任など五つのテーマを掲げ、サミットへ向けて地元札幌地区カトリック正義と平和委員会と協力し準備を進めてきた。集会は二部構成で、第一部「祈りの集い」では、「平和について」松浦悟郎大阪補佐司教(正平協会長)が、「貧困について」菊地功新湯司教(カリタスジャパン責任司教)

がそれぞれ講演を行った。また、札幌の青年たちによるギター伴奏の歌も何曲か披露され、静かな祈りのうちに前半が終わった。第二部は「アイヌ民族の権利回復と文化伝承」のテーマで、札幌在住のアイヌ紋刺繡家・小川早苗さんによる講演とワークショップが行われた。アイヌ民族が先祖伝来の「アイヌモシリ」(静かなる人間の大地)を奪われ、明治以降も過酷な差別と塗炭の苦しみを受けてきた歴史を切々たる思いで語られた。一方ワークショップでは、アイヌ民族の伝統楽器ムックリの演奏、知里幸恵著『アイヌ神謡集』(フクロウの神の自ら歌った謡)の抜粋を、小川さん指導により参加者
全員で朗読し、最後に、アイヌ紋刺繡の衣服について詳しい解説がなされた。今般「アイヌ民族が先住民族である」との国会決議がなされたが、その真の権利回復にはまだ多くの課題が残されている。かつてアイヌ民族から「シサム」(良き隣人)と呼ばれていた日本人は、抑圧の歴史が始まるや敵意をこめて「シヤモ」(和人)と呼ばれている。北海道でのサミットを機に、私たちが先住民族の人々との「多民族多文化共生社会」をめざし、更に世界の環境・資源エネルギー・水と食料・貧困や差別などの問題にもより深く取り組んでゆかなければならないと感じた。
(新海雅典神父)

ス・ワイズゲルバー大司教からは「宗教のもつ精神的・倫理的責務」について提言された。カナダのノーベル化学賞受賞者ピアノン氏の『今日爆薬は古い兵器



＝提言するカナダ・ワイズゲルバー大司教＝

となった。核兵器が使用されると大きな犠牲を生む。科学的進歩の中で新しい兵器が開発されたらどうなるか？核兵器をはじめ兵器そのものを廃絶させるべき」という言葉を紹介し、環境や社会に対して、内面の深い理解を高めるべきであり、生命の意味を再確認すべきである。そして、社会に対して人間は何をしてきたか？そして何ができるか？を考へるべきである。そして、使徒パウロも言っ

ている―実り豊かな人生は、本来私たちに神は与えられている―と結ばれた。

Goosamintyukの 目撃つぐ

市民サミット2008・世界NGOフォーラムも洞爺湖サミットに合わせて札幌で開催



7月6日から8日までの3日間、G8洞爺湖サミットの開催に合わせて札幌で開催された。

世界のNGOなど各団体が主催するワークショップや分科会が行われた。世界の現場からの報告がなされ、現在のG8サミットのあり方や、環境問題、貧困問題などについて、G8サミットとは違った市民レベルの視点から白熱した議論が行われ途上国との連携の必要性が再確認された。

カトリック北1条教会(司教座聖堂)にて、両司祭の安息を祈る

洗者ヨハネ

井戸井 栄 神父様を偲び

通夜(7月14日)と葬儀ミサ(7月15日)行われる



井戸井栄神父は、司祭叙階後まもなくブラジル布教団宣教師としてブラジルへ渡り、ロンドンリーナを中心に関半世紀にわたる宣教師活動を行ってきた。特に、日系ブラジル人一世の方たちの気持ちをととても大切に

- 〔略歴〕
- 1933年3月21日 小樽に生まれる
 - 1933年3月25日 富岡教会にて受洗
 - 1962年3月21日 司祭叙階
 - 1962年12月1日 月寒教会助任
 - 1963年4月1日 1963年4月1日 帰天 享年75歳
 - 2001年7月1日 新田教会主任
 - 2002年4月から 北1条、北26条協力
 - 2008年7月8日 北光記念病院入院
 - 2008年7月11日 帰天 享年75歳

フランシスコ・ザベリオ

近野 巨 神父様を偲び

通夜(7月7日)と葬儀ミサ(7月8日)行われる



近野巨神父は、司祭叙階後は、藤女子大学での教鞭生活が長く、宗教学を通して若い世代への宣教師に励んでこられた。授業以外の時間でもラテン語を教えるなどして学生との交流が

- 深く、小教区での宣教師とは違った形の司牧生活を楽しんでおられたようである。藤学園を退職後は、ガンとの闘病生活という重荷を背負いながらも、3つの小教区で宣教師を重ねた。
- 〔略歴〕
- 1930年4月29日 釧路に生まれる
 - 1949年4月16日 富岡教会にて受洗
 - 1962年3月21日 司祭叙階
 - 1964年11月から 北1条、北26教会助任
 - 1967年4月から 1967年4月から 1967年4月から 藤女子大学・短大講師専任
 - 1971年8月から 1971年8月から オーストリア・インスブルク留学
 - 1972年10月から 1972年10月から 藤女子大学教授
 - 1995年5月1日 北広島教会主任
 - 1998年4月1日 月寒教会主任
 - 2001年7月1日 大森教会主任
 - 2007年11月12日 恵佑会札幌病院に入院
 - 2008年7月5日 帰天 享年78歳

2008年全道司祭会議開催

6月30日(月)から7月2日(水)に藤学園セミンナーハウスと花川マリア院にて開催

年々参加する司祭が減少し参加者は42名

今回は「北海道の福音宣教」をテーマに、それぞれの地区での取り組みを報告し合い、それを分かち合っており、今後の宣教司牧に役立てていくことを目的に開催された。

主なものとして、函館地区からはWebのネットワークを利用した双方向の宣教のあり方について、苫小牧地区からは港を持っている土地柄から外国人船員奉仕会の宣教司牧のあり方、札幌地区からは信仰の



＝参加司祭の集合写真＝

メッセージが語られることの大切さから信徒の要理担当や養成講座の取り組みやブロック制について、旭川地区からは、フランススコ修道会の宣教司牧地区であり、それゆえにできた宣教共同司牧のあり方について、北見地区からは地区財政の一本化や教会づくりのパートナーである子どもたちのYLSの活動の報告がなされた。

司祭主導の宣教司牧のほかに、信徒と一緒に働くことを目指して、信徒や修道者と分かち合い、地区レベル、



＝挨拶を行う地主司教＝

トラピスト大修道院 新院長に吉元神父が就任

新任院長としてフランススコ吉元 邦彦神父が大分から来道

新たに委任院長としてフランススコ吉元 邦彦神父が、2008年6月3日付

で、フランスの母院ブリックベックのドン・シャール・ロビアルド大院長から一年間の契約で任命され、

教区レベルで物事を考えていくことの重要性和、ミサの時に子どもたちの声がかかるようにしていくことの大切さ、在道外国人への宣教司牧のニーズが拡大されていることを再確認した。



＝地区の報告の様子＝

マリアの宣教者 フランススコ修道会百周年

百周年を祝う記念ミサが7月12日(土)北11条教会で行われた

札幌修道院の設立は1911年であるが、ベリオリオズ司教の要望に応えて7人のシスターが札幌に来道し、北1条教会の近くに借家を借りて宣教活動を行ったのが1908年で今年で百周年にあたる。これ



- 5代 ゲーリン師
- 6代 アッセンハイマー師
- 7代 オニール師

米国への帰国前に、司教館に挨拶にこられたオニール神父と場崎神父



静内教会献堂50周年祝う

6月29日(日)に50周年を祝う

ミサが行われた。

静内教会は1958年にメリノール宣教会によって聖堂・司祭館・信徒集会所が献堂された。それまで、日高支庁管内の信徒は苦小牧の教会までミサを受けに通っていた。当初の信徒数は、苦小牧の教会から移籍

した50人。巡回教会として浦河教会。

- 「歴代主任司祭」
- 初代 ニュージエント師
 - 2代 オニール師
 - 3代 ラービン師
 - 4代 ヴイツテンゲル師

殉教者② イエスの証し人

殉教者Ⅱイエスの生き方を証した人たち

列福式実行委員会が列福式に向けて決めた標語のひとつである『証し188』という標語が示すものは、イエスの生き方を証した188人ということを示し、終末の命、永遠の命に希望をもった生き方をした188人ということである。それは、意志の強い人々だったのではなく、イエスの愛、みこころ、教えをただただ信じた人々だったのです。

列聖列福特別委員会委員長である溝部脩司教によると、「日本には、歴史的背景からか殉教者が多く、今回の選定には多くの困難があった。氏名・殉教の場所・日時が分かっているだけでも5500名を下ることがないし、匿名の者を数えると2万名はいると考えられます。205福者の選定基準をベースに、5つの事柄を基準として選定してまいりました。

従って、「188名というのは、選ばれなかった他の全ての殉教者を含んでいる」ことを忘れないでほしい。」とのこと

そして、列福運動は、単なる昔の物語ではなく、現代に生きる人々に向かつて、強く、暖かいメッセージを送ることを意味しています。

それを受けて、私たちは、イエスの証し人である殉教者から、小共同体での集会祭儀中心の当時、その人々に秘跡を授ける司祭となるためローマまで歩き続けるという神への一途な気持ち。待っている司祭ではなく、自ら歩いて今ここに居る人々のために生きる司祭としての姿。責任感を育てる教育と人材を育てることの大切さ。幼い子どもと共にイエスを証した家庭の大切さ。障がいや乗り越えた個人の人格の尊重などの生き方（Ⅱイエスの生き方）を現代に証しすることが大切であり、福音を述べ伝える我々の使命であるように思います。

札幌教区2007年度決算概況報告

(2007年4月1日～2008年3月31日)

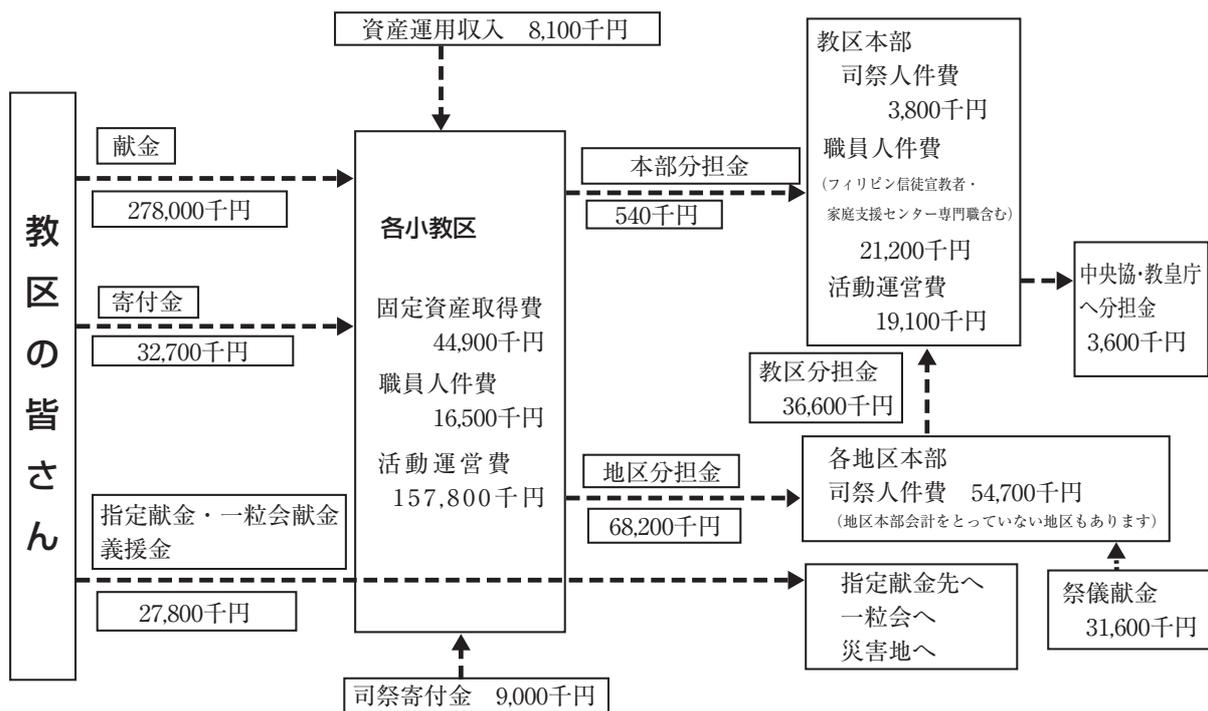
札幌教区全体の収入と主な支出の流れをご報告いたします。
取り纏めに際しては、財政委員はじめ皆様のご協力に感謝いたします。

今般、司祭・修道者数の減少に伴い、宣教司牧活動に際して、信徒の協力は大きなウェイトを占めるようになってきています。例えば、専門的知識を有する信徒による様々なケアや、在道外国人の宣教司牧やケアなどである。

これに伴い、それらに要する費用を教区として準備することも必要不可欠な事となってきています。

また、信徒が黙想会を開催できる施設も段々少なくなってきており、その対策を取ることも教区として考えていかなければならないことでしょう。

司祭、修道者、信徒が協力して宣教司牧活動にあたっていかなければなりません。皆様のご協力に感謝申し上げますとともにこれからも宜しくお願い致します。



教区・各地区の行事予定 (8月～10月)

■ 教 区			
8月25日 (月) ～26日 (火)	教区司祭月例会	(花川マリア院)	
9月22日 (月) ～26日 (金)	教区司祭黙想会	(トラピスト)	
28日 (日)	国際デー	(北1条)	
10月20日 (月) ～22日 (木)	東京管区司祭研修大会		
■ 札幌地区			
8月上旬	中学生合宿		
6日 (水)	高校生夏キャンプ		
6日 (水) ～15日 (金)	地区宣司評事務局会議	(ベネディクトハウス)	
15日 (金)	平和旬間		
17日 (日)	平和祈願ミサ・平和行進	(北1条教会)	
30日 (土)	第3回使徒職大会実行委員会	(小野幌)	
9月3日 (水)	研修会① 講師：中川博道師		
13日 (土)	地区宣司評事務局会議	(ベネディクトハウス)	
14日 (日)	研修会② 講師：雨宮慧師		
10月1日 (水)	第3回評議会	(北26条)	
4日 (土)	地区宣司評事務局会議	(ベネディクトハウス)	
5日 (日)	使徒職大会準備・侍者会	(藤女大)	
13日 (月)	使徒職大会	(藤女大)	
19日 (日)	教会創立百周年記念ミサ	(北十一条)	
	市内合同墓参	(円山・里塚・白石)	
■ 函館地区			
8月6日 (水)	平和祈祷集会	(日本キリスト教団函館千歳教会)	
24日 (日)	地区合同ミサ・懇親会	(宮前町教会)	
9月14日 (日)	函館市内教会合同墓参		
10月18日 (土) ～19日 (日)	地区合同黙想会講師：肥塚倅司師	(宮前町教会)	
■ 釧路地区			
8月31日 (日)	地区信徒大会		
■ 苫小牧地区			
8月24日 (日)	地区女性大会	(室蘭プリンスホテル)	
9月11日 (木)	苫小牧キリスト教船員奉仕会役員会	(シーフェアラーズセンター)	
■ 旭川地区			
8月2日 (土) ～ 3日 (日)	名寄・士別巡回		
2日 (土) ～ 4日 (月)	稚内・枝幸巡回		
8日 (金) ～ 16日 (土)	稚内・枝幸巡回		
15日 (金)	新谷のり子コンサート	(旭川5条教会)	
17日 (日)	地区カトリック大会		
31日 (日)	合同初聖体式	(旭川5条教会)	
9月1日 (月) ～ 6日 (土)	O F M北海道ブロック黙想会	(花川マリア院)	
13日 (土) ～ 15日 (月)	稚内・枝幸巡回		
20日 (土) ～ 21日 (日)	旭川地区信徒黙想会		
20日 (土) ～ 25日 (木)	名寄・士別巡回		
24日 (水) ～10月2日 (木)	稚内・枝幸巡回		
10月9日 (木) ～ 14日 (火)	稚内・枝幸巡回		
18日 (土) ～ 23日 (木)	名寄・士別巡回		
22日 (水) ～ 30日 (木)	稚内・枝幸巡回		
■ 北見地区			
8月9日 (土) ～ 10日 (日)	教会学校・Y L S 合同夏季キャンプ	(北見教会)	
31日 (日)	カトリック大会 講師：ライヤ師	(北見教会)	
10月末	地区宣教司牧評議会	(美幌教会)	

「一八八殉教者の列福を求める祈り」

いつくしみ深い神よ

▲ひとり子イエスは、十字架の死によって全ての人の救い主となり、神への道を示して下さいました。主の招きに従い、神と隣人のためにささげられた尊い命を顧みて下さい。一八八名の列福を願う日本の教会の祈りを聞き入れ、殉教によって蒔かれた信仰の種に、豊かな実りを結ばせて下さい。殉教者の証しが、旅する教会の励まし、道しるべとなりましますように。恵みによって、かれらの人生を福音のしるしに変えて下さったように、わたしたちの日々の暮らしも、神のいつくしみを現すものとして下さい。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン

(長崎大司教認可)

訃報

安息をお祈り下さい。

◆聖ゲオルギオのフランシスコ修道会
Sr. M マリータ 大杉 久美



大杉シスターは、44年の奉獻生活を送り、2008年6月7日12時46分腎臓ガンのため、入院先の北海道大学病院で永眠いたしました。

道会に入会し、1967年に初請願をたて、1975年終生請願。

故人は、初誓願宣立後2年半修道院内で働き、その後大学の経済学部で学んだ。1981年7月に札幌の修道院本部に戻り、以後帰天の少し前までの27年間を修道会日本管区の会計を務めました。深い信仰のうちに自分に任せられた係りを責任と落ち着きをもって果たしました。元気・活発でよく働くシスターとして知られ、人の必要を敏感に感じ取ることの出来る温かい心の持ち主でした。

編集後記

188殉教者の列福式まで4ヶ月をきりました。式の準備にあたっている長崎教区の方々にはただただ感謝です。

殉教者はイエス・キリストの行いを証しした人々。時代を越えてイエスと共に生きた人々。

殉教者に倣って生きるにはどのようにすればよいでしょうか？

まず、私たちがすぐに出来る証しは「祈る」ことではないでしょうか。平和のために祈る。貧しい人たちのために祈る。隣人のために祈る。教会のために祈る。司祭のために祈る。祈りの力は大きいです。祈りましょう。

教区の風

虻田教会と平和の鐘



伊達の「平和の鐘」
救いの鐘、祈りの鐘
伊達市網代町の市水道庁舎横の小公園に「平和の鐘」があります。

郷土史を研究する泉隆氏によると、この鐘には、平和への願い、戦没した多くの人々の鎮魂のため祈り、戦いのない世の中にするための念願がこめられているそうです。
この鐘の由来は、北海道開拓から始まり、明治13年北海道開拓当時の官立鉄道「手宮（現南小樽）駅」で駅の釣鐘として使用さ

れた「開拓の鐘」が始まりでした。
そして、「開拓の鐘」

の姉妹の鐘は、有珠鉄道でも利用され、第二次世界大戦の頃は有珠鉄道病院で空襲時に避難の警鐘として利用され、多くの人々の命を救った「救いの鐘」でした。

その「救いの鐘」は、昭和36年に、伝道師として有珠方面の宣教にあたっていた小森芳雄氏の尽力により、改築されたカトリック有珠教会の塔（鐘楼）の中に納まり、朝昼晩と日曜日のミサの時を告げる「アンジェラス（祈りの鐘）」となりました。

昭和37年5月20日の虻田教会の献堂式で、2年前に帰国なさったメイナード神父（メリノール宣教会）によって「鐘」は聖別されました。

昭和47年虻田教会の建物は取り壊され、「鐘」は伊達に移送さ

れ、長い年月を経過して昭和62年に伊達市に寄贈されました。

カトリック教会では、特に毎年平和旬間で「平和」に向けて心を一つにして祈ります。

奇しくも、マリア様の被昇天の祭日である8月15日が日本の終戦記念日にあたります。

カトリック北一条教会（司教座聖堂）では、毎年、夕方6時から司教司式の平和祈願ミサが行われています。「祈り」は大きな力です。そして、私たちが出来る「第一歩」です。多くの方が同じ場所に集い、心を一つにして祈ることが出来たら素晴らしいことではないでしょうか。共に祈りましょう。



まとまった時間がとれる
買体と尺

カトリック中央協議会の教皇ベネディクト十六世の「霊的講話集」
(1,050円)



「聖体―教会生活と宣教の源泉と頂点」のテーマで開かれた世界代表司教会議後の使徒的勧告
(1,050円)



私的・個人的領域に追いやられてしまっている希望。キリスト教信仰におけるその真の価値を示す回勅
(945円)

